深い学びのために

学習のポイントの解答例

1 **「大井の土民」の「数日に営み出だして」（三〇ページ２行～３行）と「おほかためぐらざりければ」（三〇ページ４行）に対応する「宇治の里人」の様子を抜き出して、「大井の土民」と「宇治の里人」の間にはどのような違いがあったのか、考えてみよう。**

【答】「数日に営み出だして」→「やすらかに結ひて」
「おほかためぐらざりければ」→「思ふやうにめぐりて」
大井の土民は水車を造ることに精通してはおらず、一方、宇治の里人は水車造りを得意としていた。

▼ポイント▲　「数日に」と「やすらかに」、「めぐらざりければ」と「思ふやうにめぐりて」がそれぞれ対応していると考えられる。対応関係は現代語訳ができていれば考えられる。大井の土民と宇治の里人との違いは脚注を参考にしながら、考えるとよい。

2 **「その道を知れる者」（三〇ページ10行）とはどのような人のことを言うのか、話し合ってみよう。**

【答】あることがらについての、ちょっとした「こつ」や秘訣を知っている専門家のこと。

▼ポイント▲　ちょっとした「こつ」や秘訣は実は案外と分かりにくいもので、何かをきわめてよく理解している人だからこそ説明できることが多いのである。

言葉と表現の解答例

1 **次の文を単語に分け、用言を抜き出して、それぞれ終止形に直してみよう。**
(1)　いたづらに立てりけり。（三〇・５～６）
(2)　やんごとなきものなり。（三〇・10）

【答】(1)　いたづらに／立て／り／けり　「いたづらなり」（形容動詞）「立つ」（動詞）
(2)　やんごとなき／もの／なり　「やんごとなし」（形容詞）

言語活動の解答例

1 **「その道を知れる者」にふさわしい人を、身近にいる人の中から選び、どのような点で「道を知れる」と言えるのか、発表してみよう。**

（意図）「その道を知れる人」がどのような人か、自分に引き付けて考える。自分の思い描く人について詳しく説明する。

（手順）

1「その道を知れる人」としてふさわしい人を選び出す。

思い浮かぶ人を列挙する。スポーツ選手や歌手など思い浮かぶ人はたくさん挙げられるだろう。その人たちの中から、その人が話したことや書いたことで、「コツ」らしきものがあったと思い浮かぶ人を選ぶとよい。

2「その道を知れる人」としてふさわしい理由を考える。

「コツ」らしきものをポイントにふつうはなかなか気付かないことに気付かせてくれた経験をまとめるとよい。すごいことを挙げようと考え過ぎなくてよい。ちょっとしたことでもいいので、気になることを挙げてみる。そのようなことをまとめると意外に多くの人の共感を得ることができる。

（ゴール）多くの人に自分の考える「その道を知れる人」を知ってもらい、興味を持ってもらうことがいちばん大切なことである。いわゆる「名人」は実は身近にもいることに気付くと、学びの世界が広がる。また、そのために堂々と自分の思いを伝えるように工夫してみよう。

（畠山　俊）